

## 債権管理実務研究会とは

1982年に発足した株式会社商事法務の年会費制事業で、企業の与信・審査や債権管理・回収を担う実務担当者の教育・研鑽の場です。法制度や裁判動向、税務・会計・財務分析、社内体制など幅広いテーマを扱い、セミナーや会員交流を通じて多角的な実務情報を提供。約200社の会員に対し、人材育成と組織力強化に資する活動を展開しています。

## 生成AIで変わる契約書作成とリスク判断実務

— 契約書作成等での実践活用ガイド

- ▶ 生成AIの進展により、契約書作成やレビュー、リスク判断業務においてAIを活用する動きが急速に広がっています。
- ▶ 本セミナーでは、契約書作成・レビューを題材として、実際にCopilot・Gemini・ChatGPTなど複数の生成AIを用いて検証しながら、その出力の差異と実務上の有効性を比較分析します。
- ▶ そのうえで、契約書の構造や条項理解を踏まえつつ、AIの特性と限界を整理し、「AIに任せるべき領域」と「人が担うべき判断」を明確化します。
- ▶ さらに、法務・コンプライアンス・審査の各部門に共通するリスク判断業務への応用を見据え、安全かつ実践的な活用ルールと業務設計を提示し、AI時代の実務対応力の向上を目指します。

### 主要講義項目

#### 第1部 生成AIによる契約書作成・レビューの実力検証と限界整理

- 1 同一条項による生成AIツール比較
  - ・ 契約書の作成とレビューの出力差
  - ・ 指摘の網羅性／日本法適合性／実務妥当性の検証
- 2 比較から見えるAIの特性と限界
  - ・ AIが得意な領域（論点整理・翻訳・比較）
  - ・ AIが弱い領域（日本法・交渉・ビジネスリスク判断）

#### 5 契約書作成・レビュー業務の見直しと役割分担

- ・ 前提整理の上での方針策定（初期チェック／法的評価／リスク判断）
- ・ AIと各部門の役割分担
  - ↳ 法務：法的評価・契約判断
  - ↳ コンプラ：規制適合性・社内ルール適用
  - ↳ 審査：公開情報の整理・リスク情報の初期スクリーニング
- ・ AI出力を前提とした「意思決定」

#### 第2部 法務・コンプラ・審査における実務活用設計

- 3 生成AIツールの基本、各社における利用方法
  - ・ 生成AIツールの基本的なシステム構成（クラウド、オンプレミス）
  - ・ 生成AIツールの課金システム
- 4 生成AIツール利用の基本ルール
  - ・ 総務省「AI事業者ガイドライン」、経済産業省「AI活用における民事責任の解釈適用に関する手引き」について
  - ・ AI利用の基本原則と統制
  - ・ 機密情報・契約書の取り扱い

#### 第3部 実務応用：リスク領域への展開

- 6 リスク領域への応用拡張
  - ・ 反社チェックへの活用可能性と限界
  - ・ コンプライアンスチェック（規制適合性）の補助
- 7 今後の動向と実務導入における統制と留意点
  - ・ AIエージェント時代の方向性
  - ・ AI判断の位置づけ（補助ツール化、業務への取込み）
  - ・ 誤情報リスクと検証プロセス
  - ・ 説明責任・内部統制への組み込み

**講師 関口彰正** 弁護士・弁理士  
(岩田合同法律事務所 パートナー)

IT・知的財産に関する案件（契約交渉代理、国内外の紛争対応等）を主に取り扱い、その他、ジェネラル・コーポレート、M&Aも担当している。ITベンダー、メーカー、総合商社、航空会社、不動産デベロッパー、特許事務所等多数の会社・団体のリーガルアドバイザーを務める。主な著作：『IPOハンドブック』（共編著 商事法務 2025年）など。

**講師 堀田昂慈** 弁護士（岩田合同法律事務所）

都市銀行法務部へ出向後、LINE株式会社において金融事業のセキュリティ部門マネージャーを経て、IPO準備企業において取締役CAO（管理担当）としてバックオフィス全般を所管。弁護士としても、様々な規模の企業に対しガバナンス構築、法務業務の効率化の他新規事業開発に関する多くのアドバイス実績を有する。量子産業法務ネットワーク（QILN）共同代表。主な著作：『IPOハンドブック』（共編著 商事法務 2025年）など。

開催日時 10月8日(木) 10時～12時

会場 株式会社商事法務 会議室(東京都中央区日本橋3-6-2 日本橋フロント3階)

視聴期間 1か月(視聴開始日 11月2日(月)から任意の期間)

受講料 【法人申込】29,700円(税込)/1社(同一法人内に限り複数名受講可能)

【個人申込】16,500円(税込)/1名

詳細はホームページをご確認ください。

WEB申込

